

たけの子を卒園する りったんへ



りっちゃん、今日はたけの子の卒園式だよ。あなたが赤ちゃんだった頃が、この間のように感じられるのに、本当にあつという間ですね。

初めてたけの子の見学に訪れたのは、あなたがまだ一歳八ヶ月の頃でした。その時は入園には至りませんでした。小さい体で雪山に登り、他の園児に混ざって寒いお外を駆け回った姿が強く印象に残ったことを覚えています。まだ赤ちゃんのあなたが、こんなに逞しく遊べるんだーと。

それから数ヶ月後、半年という期間限定でたけの子へ入園、りっちゃんは二歳四ヶ月。初めてかあたんとして離れて過ごすあなたは、もちろん全力で泣いて登園しましたね。それでも保育時間中、「かあたんは？」とスタッフさんに尋ね、「お家でお血洗ったりお洋服洗ったりお仕事してるよ。」と教えてもらおうと、「うん」と



言って納得し、安心してまた遊びに戻ると聞きまし。それを一日に何度も繰り返すうちに、泣かずに登園出来るようになりましたね。

その後一度退園、認可園への入園。コロナ禍も加わり、お外で自由に遊べる環境が如何にありがたかったかを痛感したとうたんかあたんは、恒ちゃんと一緒に週一でたけの子に登園させることを決めました。再び見る、制限や規則にとられることなく、自由に思うがままにお外遊びをするあなたの姿に、やはりここだ、と確信したのでした。

週一で通っている頃から、毎日登園するようになって、あなたのたけの子での遊びは、他の保護者さんから「たけの子に通う誰よりもたけの子園児」と言われる程豪快な遊びでした。寒い春の日でも、肌着とパンツで砂遊び（泥遊び）。田んぼでは服を着たまま泥パック。夏は川でソリサーフィン。秋はポケットがパンパンになるまでどんぐり集め（忘れられた腐ったどんぐり達よ）。雪が積もれば、雪にダイブ。一年中、お外遊びを堪能しました。年中太陽の下で過ごしたせい、きれいなお肌です。少一しそばかすが出来ちゃったけど、それも小さい頃からお外で遊び倒し

てきた勲章とかあたんは誇らしく思っています。

たけの子に通い始めてからの四年間、お友達にも恵まれ、楽しい時間を過ごせた事、本当に嬉しく思っています。時には、お友達と喧嘩して悲しい思いをしたり、上手く出来なくて悔しい思いをしたりしたことでしょう。全てひっくり返して、たけの子での経験がきつとこれからの人生の糧になるはず。

りっちゃん、卒園、本当におめでとう！とうたんもかあたんも今までもこれからもあなたを愛しています。最後になりましたが、我が子を小さい頃から見守ってくださったスタッフの皆様、一緒に遊んでくれたお友達のみならず保護者の皆様、関わって下さった全ての皆様、本当にありがとうございました。

佐藤 剛郎

真貴子

